

働き方改革推進方針における各成果指標の状況

成果指標	R元	R2	R3	状況
1. 時間外勤務月80時間超の県立学校 教師(教諭)の割合(各年度11月) ※システム把握	25.3%	20.6%	19.1%	時間外勤務月80時間超の教師(教諭)の割合は、 着実に減少
2. 教師自身の学びの実践 (項目の学びの実践の選択数)	3.67	3.13	3.42	昨年度に引き続き、コロナによる研修等の中止・ 延期等の影響があったが、「オンライン上の講座や セミナーの参加」が、約1.8倍に増加したこともあり、 選択数全体も改善
内、オンライン講座受講等	9.9% (320人)	30.7% (988人)	52.6% (1,770人)	
3. 教職員のやりがい (ワーク・エンゲイジメント)	28.83点	28.35点	28.64点	日本(民間企業)の平均(23.58点(※1))以上の 水準をキープ
4. 教職員の抑うつ傾向(メンタルヘルス)	5.36点	5.57点	5.62点	昨年度と同じ水準をキープ(※2) ※5点以上がリスク群、10点以上がハイリスク群
5. 教職員の主観的幸福感 (ワーク・ライフ・バランス) 10点満点	6.06点	6.06点	6.09点	日本の平均(5.89点(※3))以上の水準をキープ

※1:リクルートマネジメントソリューションズ(2019)「ワーク・エンゲイジメントに関する実態調査(N=624)」で平均値23.58点
質問は、「仕事をしていると活力がみなぎるように感じる」等9項目について、どのくらいの頻度で感じているか、
「0:全くない～6:いつも感じる」の7段階で問うもの

※2:質問は、過去1カ月のこころの状態(6項目)を「0:全くない～4:いつも」の5段階で問うもの

※3:内閣府(2019)「満足度・生活の質に関する調査」に関する第1次報告書で平均値5.89点、
同2020年調査ではコロナウイルス感染症拡大前後で1.48点の低下
質問は、直近1カ月の状況を「0:最高に不幸～10:最高に幸福」までの11段階で問うもの